

表2 飛散花粉数の多い日の予測

	令和3年予測	令和2年	過去10年平均
区部（日）	27	24	36
多摩地域（日）	31	20	31
都内平均（日）	30	21	33

【参考】

○ 飛散開始日の予測

飛散開始日の予測については、1月の日単位の平均気温の積算値のほか、スギの花芽が休眠に入った後の11月以降の気温の推移等を総合的に判断して行っています。

しかし、この先の気温が予測よりも高くなったり、2月上旬に春一番（南風）が吹いたりした場合には、飛散開始日は予測よりも早まる可能性があります。

最新の飛散開始日の予測は、2月初めごろにホームページでお知らせします。

○ 飛散開始日の定義

一観測地点で、1月以降にスライドガラスの1平方センチメートル内にスギ花粉が1個以上捕集される日が、原則として2日以上続いた最初の日としています（空中花粉測定および花粉情報標準化委員会の合意事項による。）。

なお、気象条件により、飛散開始日以前に少量の花粉が飛ぶ場合があります。

○ 飛散花粉数が多い日の定義

飛散花粉数が多い日とは、花粉捕集器を用い、捕集した花粉の数値が1日あたり30個/平方センチメートル以上の日としています。

空中花粉測定および花粉情報標準化委員会の合意事項では、1日あたりの飛散花粉数が10未満を「少ない」、10から30未満を「やや多い」、30から50未満を「多い」、50以上を「非常に多い」としています。都では、この基準をもとにして100以上を「極めて多い」という区分として追加した、独自の基準を暫定的に使用しています。

○ 飛散花粉数の経年変化（過去10年平均）

都内の飛散花粉数の経年変化を見ると、過去10年平均は増加傾向にあり、平成6年時点の過去10年平均と比べて、現時点の過去10年平均は約3倍になっています。（図2）

（個/cm²/シーズン）

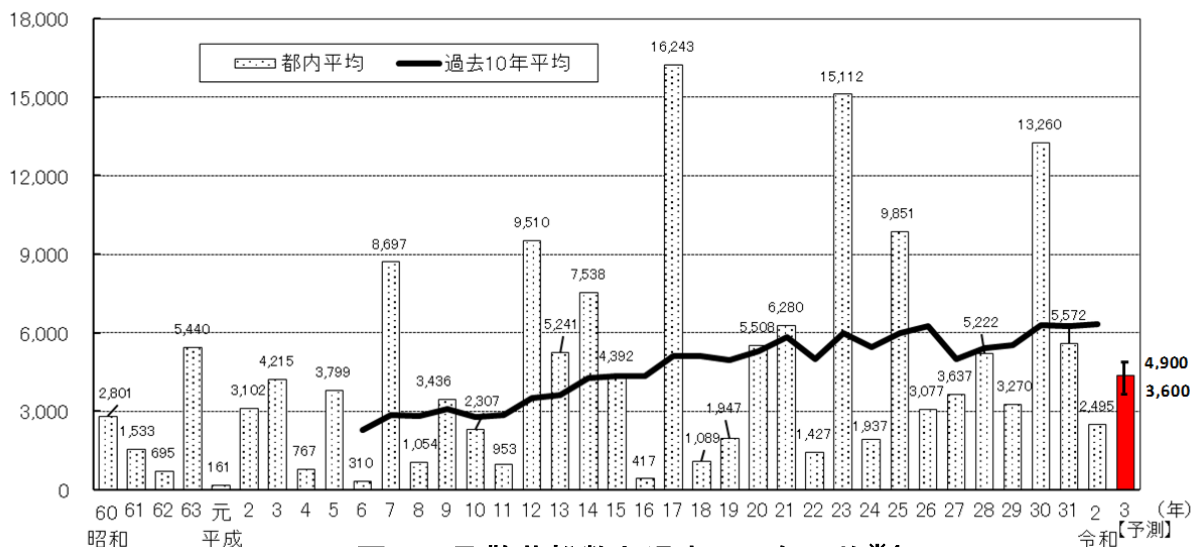


図2 飛散花粉数と過去10年平均*4

※4 平成2年から千代田で測定開始、平成9年から小平で測定開始、平成17年から多摩、立川、府中で測定を開始した。平成17年以降は、現在の12地点で測定を行っている。